

絆つないで

優しい風合いと縞柄が特徴の「会津木綿」。この素材を使ったストールが、仮設住宅などで暮らす女性たちの手で作られています。避難生活を送る女性の新たな仕事として、ストールの製造・販売をしている団体「IIE(イー)」をご紹介します。

IIE【会津坂下町】

☎0242-23-7760

【販売先】
http://www.iie-aizu.jp



▲「IIE」の皆さん。団体の名前は、震災日の311をひっくり返したいとの気持ちから、鏡文字にローマ字をあてたもの



▲吸水性や通気性にも優れ、季節を問わず使える「ストール」

伝統産業で、雇用を。 仕事を通じて人と人がつながっています

「最初は時間がかかったけど、今では1時間ほどで作れるようになりました」と笑顔で話すのは大熊町から避難してきた廣嶋めぐみさん。「IIE」では大熊町や橋葉町から会津若松市に避難してきた女性たちが、会津木綿を使ったストールを作る仕事をしています。

作り手の女性たちは「避難先で子どもを預けることもできず、働きたくても働けなかった。知り合いもいなくて孤独を感じながら過ごしていたんです。だから、この仕事ができてありがたい」と口を揃えます。ふだんは、仮設住宅やそれぞれ自宅好きな時間に作業をしていますが、月に1回、メンバーみんなでカフェに集まってお茶会も開催しています。「この仕事をしていなかったら、地元の人とあまり話をする機会もなかった。震災で人とつながりが途切れたからこそ、仕事を通して人とつながっていることがうれしい。」と笑顔を見せます。

代表の谷津拓郎さんは、避難してきた女性たちから「何もすることがなくてつらい」という声を聞き、会津の伝統工芸品「会津木綿」を使った布製品作りを思いつきました。谷津さんは、今後について「この仕事を続けたいと思っている方が、いずれ故郷に帰ってからもできる態勢をつくっていききたい。そのためにも、活動を継続し商品のブランドを確立したい。」と話します。さらに続けて「今は支援ではなく、一緒に自分たちの仕事を作っていく気持ちです。IIEを通して地域に雇用を創り、文化を継承していきます。」と力強く話してくれました。



▲作り手の1人、廣嶋さんは「さまざまな色や柄があって作るのが楽しい」と話します



▲布の端から縞糸を抜いて、縞糸で房を作ります

自分たちだから分かる 「今、ここにある幸せ」

昨年3月には与志則さんらボランティア仲間と地元の人たちで、ご当地ヒーロー「相双神旗ディネード」のDVDをリリース。相双地区の保育所・幼稚園・小学校に無料配付しました。

ディネードには「地震や放射能に負けるんでねーど」の思いが込められています。ヒーローを演じるのは、南相馬市の若者。武藤さんは演技指導にあたるとともに、何でも知っている「アダマイ(頭いい)博士」として

登場しました。震災で解き放たれた悪の軍団を倒すべく立ち上がるヒーロー。

ヒーローの「僕たちを今まで包んで育ててくれた、自然を守っていくんだー」という台詞には子どもたちへのメッセージが盛り込まれています。「ラストシーンは気持ちこもった、いい演技なので見てほしいですね」と与志則さん。「山があり、海があり、食べ物おいしい。外から来た私たちだからこそ分かる街の良さがあります。長い間住んでいても、この幸せに気付いていない人も多い

ですよ」。

昨年、琴美さんは障がい児教育の研究者を対象に、被災地の現状を知ってもらおうツアーを実施。夫妻は、それぞれの得意分野で活動を続けています。「ここで二人が楽しく暮らしていることで、伝えられるメッセージがあるよね」と言う与志則さんの言葉に、琴美さんも傍らで大きくうなずいていました。



(上)相双神旗ディネードは、昨年度南相馬市立図書館のDVD貸し出しナンバーワン! 映像の一部をYouTubeでも見ることができます

(下)市内外のイベントにひっぱりだこ。9月21日、22日の「ご当地キャラ子ども夢フェスタ(白河)」にも参加します(6ページ参照)



ふくしまの 今

東日本大震災の被災地には、全国各地からボランティアが集まり、復興を支えてくれました。そのボランティア活動がきっかけで県内への移住を決めたというご夫婦がいます。



移住の決め手は、人の良さ 多くの協力で南相馬市へ

「何が気に入ったの？って、いろんな人に聞かれるけど、一番は、人の良さですね。ここは知らない人も挨拶してくれるんですよ。今では、都会暮らしより安全・安心なんじゃないかと思っています」と武藤与志則さん。

長年東京の劇団に所属し、声優としても活躍してきた与志則さんが、奥さんの琴美さんと南相馬市に移住したのは、震災のあった年の10月。ボランティア

で何度も南相馬市にくるうち「雪が降る前に住もう！」と夫婦で意見が一致しました。その意思を周囲に伝えると、住宅不足の中多くの人が家探しに協力してくれたそうです。

「避難中の人もいるのに、どうして住むの？と言いながら、地元の方も喜んでくれてるのが分かりました」と琴美さんは振り返ります。移住したことでさらに地元との絆は深まり、地域に寄りそう二人の活動の幅が広がっていきました。

東京から南相馬市に移住 ● 武藤与志則さん・琴美さん（南相馬市）

ここに住み、地域に寄りそうことで、
伝えられることがあるはずだから。



(上) 昨年、被災地へのツアーを行った琴美さん。与志則さんは、南相馬ひばりエフエムのパーソナリティーとしても活躍中
(右) 武藤与志則さんと、琴美さん夫妻。琴美さんは、障がい者と演劇に関わる提言活動を行ってきました

